日本百名山
登山日記

歩みを止めなければ、いずれ頂に辿り着く、そんな山日記です

vol.24 笠ヶ岳（日本百名山 27/100）

山の名前には、笠や烏帽子、冠など頭に被るものの名前が多くあります。深田久弥氏によると、北アルプスに位置する笠ヶ岳（標高2,898m）は、これら笠がつく山の筆頭であるとしています。

その理由はどの距離どの角度から眺めても、笠の形が端正で美しいという事ですが、私もはじめて見た時から北アルプスの山々の中でも特徴的な槍ヶ岳についでわかりやすい山容で、また座する位置からも非常に見つけやすい山だと感じていました。

さて、北アルプスは他のアルプスに比べてアルペン的な雰囲気があり、またアクセス環境も良い事から登山者が非常に多い人気の山域です。私が初めて北アルプスを訪れた時には、あまりの登山者の多さに唖然としてしまいました。

そんな北アルプスの中で笠ヶ岳は、主脈から外れた位置にあるためか、比較的登山者も少なく静かな山歩きが出来る場所となっています。しかも、新穂高から笠新道を通るルート上には、途中に休憩できる山小屋が無い事、そして何より稜線に出るまで単純に1,500m以上の急登を上らなければなりません。

登山をする人なら聞いたことがあると思いますが、キツイ登りには日本三大急登と呼ばれる登山道があります。諸説はありますが、谷川連峰の西黒尾根、北アルプス烏帽子岳のブナ立尾根、そして南アルプス甲斐駒ヶ岳の黒戸尾根がそれにあたります。しかしながら、そこを登った人がそれ以上にキツイかもと言うのが笠新道です。個人的には急登は嫌いではないので、試しに登ってみました。

稜線に出ると目の前には美しい笠ヶ岳

出典：ヤマップ地図

以下、登山データです。

登山データ：距離 21.0km　累積標高上り 2,207m　登山区分 日帰り（ヤマップのデータを転記）

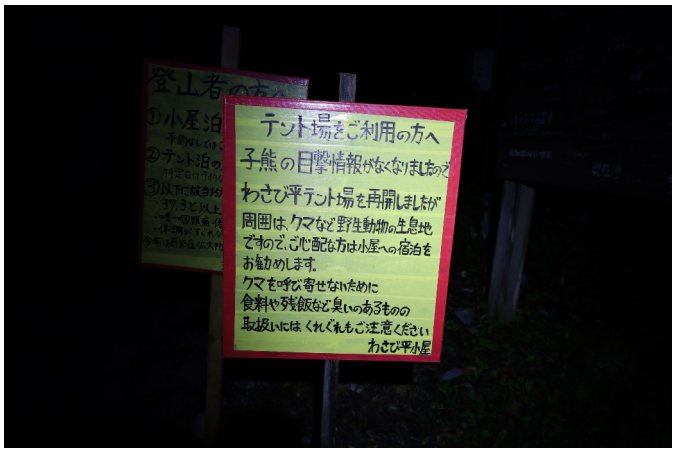
さて、今回の登山について報告します。
このコラムに毎回書いていますが、山口県から北アルプス（今回は岐阜県側から入山）への車移動は11-12時間かかります。いつもの事ながら、大阪ー京都ー大津間および愛知県の一の宮JCT付近で渋滞に巻き込まれ、新穂高温泉登山口駐車場に到着したのは16時でした。
新穂高温泉は無料駐車場の数はかなりありますが、そこは北アルプスの有名な登山口、登山者が多いことから駐車場確保は常に争奪戦です。近くの駐車場が確保できなければ、遥か遠くの駐車場にとめる必要があり、それ自体で登山に影響がでます。
しかしながら、少し前からなんとネットで駐車場予約ができるようになり（2,000円/日）、安心して新穂高に向えるようになりました。

河川右岸、新穂高駐車場（予約制）

駐車場の看板

さて、駐車場には16時に到着しましたが、翌日の天気予報を見ると予定より早くに天候が崩れるようになっていたので、午前３時に出発予定のところを午前1時に前倒しして出発する事にしました。
という事で、道中のコンビニで買った弁当で晩ご飯を済ませ、17時には早々に就寝です。
午前0時に起床、お腹はさほど空いてませんが、とりあえず朝食と言うにはかなり早い食事を無理やり摂り、登山服に着替え、0時47分スタートします。
いつものように真っ暗な中、熊注意の看板や行方不明者捜索の張り紙などを見て、テンションが上がらないまま、まずは林道を3.7km歩きます。
作業車が十分通れる整備された左俣林道を歩くこと約45分で笠新道登山口に到着、いよいよ急登と言われる笠新道に挑戦です。コースタイムは抜戸岳まで5時間20分、距離4.3km、標高差1,483m平均勾配は345m/kmとなります。

林道の入り口ゲート



注意喚起の看板

実際、笠新道を登った感想としては、真っ暗闇の中の登山であり淡々と登ったため、そこまできついとは正直思いませんでした。と言うのも、この笠新道は四肢を使うような急勾配はなく、足のみで登れる勾配です。それが一番きついとよく言われますが、私はこの微妙な勾配は嫌いではないですし、このようなシチュエーションの山に登る機会を多く得ていたので特に問題はありませんでした。

しかしながら、この登山道は転石がメインとなります。上りはともかく、下りは辛いだろうなと思いながら上りましたが、案の定、下りの最中は、「エグイ、膝が壊れる」を頭の中で連呼してしまいました。

林道が終わり、ここから笠新道スタートです

登山道の様子

森林限界を抜けた頃、明るくなってきました

もう少しで稜線です　ちなみに岩は凍っています

振り返ると穂高連峰

美しい槍ヶ岳

さて、6時6分 日本百高山である抜戸山に到着です。登っている最中、背後に少し前に降った雪を被った奥穂高岳、涸沢岳、北岳、南岳、中岳、大㜍岳、そして槍ヶ岳を見ながらすでに満足していましたが、抜戸岳の山頂からは、黒部五郎岳、鷲羽岳、薬師岳、立山、剱岳、そして遠く雲の上に頚城山塊の山々、また日本海が一望できます。そして南に目を移すと、これから目指す笠ヶ岳が秀逸な姿でどっしりと構えています。

抜戸岳山頂（標高 2,813m）

稜線の先に黒部五郎岳と薬師岳

双六岳、鷲羽岳 方面

樅沢岳と奥に頚城山塊

抜戸岳で少しの休憩と食事をした後、いよいよ笠ヶ岳を目指します。この稜線は地図上では緩やかな感じでしたが、そこそこ遠く、そこそこ登る。しかも、山小屋直下の上りはじみにキツイ。そんな時、絶妙な位置に書いてあったガンバレの文字には励まされました。

目指す笠ヶ岳

歩いてきた稜線を振り返る

笠ヶ岳の山頂と右上は山小屋

ありがとう、励まされた

さて、山頂直下の山小屋で、少しエネルギー補給した後、笠ヶ岳の山頂に挑みます。と言っても、山頂まではわずか10分です。山頂には先行者1名（少し離れたところで食事中）以外は誰もいませんでした。ほぼ貸し切りの山頂で、北アルプスの大パノラマを独り占めです。

穂高連峰をはじめとする北アルプスだけでなく、御嶽山、そして中央アルプスに南アルプス、富士山も見えます。また、西には霊峰白山も見ることが出来ました。

この眺望は、今まで私が登ってきた山の中で一番かも知れません。焼岳から見た穂高連峰も、下から見上げるようで大迫力でしたし、常念岳から見る景色も秀逸でした。しかしながら、目に入ってくる風景の距離間は私の好みで筆舌にし難く、ただただ感動で風景を見つめ続けていました。

山頂まであと少し

笠ヶ岳 山頂標

歩いてきた稜線

左に薬師岳　右奥に剱岳と立山

南アルプスとその奥には富士山

手前から焼岳、乗鞍岳、御嶽山

霊峰 白山

さよなら、また来たい山です

草紅葉が美しい、後ろ髪をひかれます

チングルマの綿毛は晩秋を感じさせます

笠ヶ岳は、北アルプスにある日本百名山の中ではマイナーな存在と勝手に思っていました。
しかしながら、その山容は非常に美しく、そこに至るまでの登山道もまた素晴らしかったです。
笠新道の下りには苦労させられましたが、本当に満足度の高い登山でした。
尚、下山時は天気予報よりも早くに天気が崩れ、途中で結構な雨が降ってきました。しかしながら、既に林道まで下りていたので、安全面では問題なく駐車場まで辿り着くことが出来ました。
足元の悪い笠新道の下りで雨に降られたら、石が滑り転倒の危険もかなり高まっていたので、早立ちして正解でした。